

建設防災

ボランティアニュース

第 41 号

平成 23 年度 東京都合同総合防災訓練への参加

すばらしい天気にも恵まれた 10 月 29 日(土)、多摩直下を震源とするマグニチュード 7.3、震度 6 弱以上の地震が発生したとの想定で「平成 23 年度東京都・小平市・西東京市・武蔵野市・小金井市合同総合防災訓練」が 9 時から 13 時まで都立小金井公園で行われた。東京都をはじめ小平市、西東京市、武蔵野市、小金井市のほか、警視庁、東京消防庁、自衛隊等の防災機関、アジア大都市ネットワーク 21(シンガポール、ソウル、台北)の消防隊、東京DMAT、愛知県、相模原市、横浜市の緊急援助隊等が参加しての大規模なものであった。

当協会は建設局からの協力依頼を受け本部から 3 名、北多摩南部建設事務所班から 5 名、北多摩北部建設事務所班から 5 名、西部公園緑地事務所班から 3 名、計 16 名が道路啓開訓練、水防訓練、展示訓練等に参加した。

今年の人命救出救助訓練は公園緑地部が管理する小金井公園の「いこいの広場」を会場として、3・11の教訓をふまえ「震災時の地域住民の自主防災能力を充実させ、地域一体としての防災力を向上させるとともに、これを支援する東京都及び各防災関係機関の連携強化による災害対応力の向上を目的」として行われた。この中には従来の訓練と異なり、「シナリオを訓練参加者に予め知らせず、現場での判断で訓練を実施する」というより実践的な内容を組み込んだものであった。このため道路啓開では予想外のハプニングもあり臨場感のある訓練となった。一方、積み土のう・水のう

設置体験訓練、浸水時扉開閉訓練、公園を始めとする展示訓練等が救助訓練とは別のエリアでおこなわれ、訪れた大勢の都民が熱心に訓練に参加したり、展示内容について質問したりと行列のできるだけ大賑わいであった。

訓練終了に際し、全体講評で猪瀬副知事は「今回の訓練は今までと違う、より身近な参加型の訓練としてシナリオを知らせない実践的な内容にした」と話され、4市の市長はともに「地域の連携の大切さ」を強調されていた。



猪瀬副知事の講評



村尾都技監の挨拶

また、村尾都技監は「東京都所管の施設管理は365日休みがない。今日の訓練なども生かして十分な管理をお願いしたい」と話された。

局災害対策本部長である横溝道路監は、当協会の協力に感謝するとともに参加者に慰労の言葉をかける講評を述べ、訓練は終了した。



横溝・局本部長(道路監)の講評

担当理事 中田 勝司

北南建班の報告

1) 道路関係班

2011年10月29日小金井公園において、北多摩南部建設事務所と北多摩北部建設事務所は、補修課を主力部隊として工区などと共に東京都合同総合防災訓練の道路啓開訓練に参加した。

私たち北南建班の防災ボランティア会員は道路関係の担当として、高橋さん、内山さん、新川の3名が、別の河川関係の会場では、水防体験等などのために米田さんと三沢さんの計5名が参加した。

道路啓開訓練(想定小金井街道)は、道路上に散乱した建物からの崩落ガレキを除去して啓開する任務を遂行する訓練である。

今回の訓練では、ブラインドと云うことで事前に練習のできない事項が含まれており、現場での担当者による臨機応変の対応が求められていた。

午前9時に小金井公園に集合して、訓練開始を待つことになる。9時42分ごろ本部から訓練開始のアナウンスがあり、9時55分ごろ北多摩南部

建設事務所に災害対策本部が立ち上げられた。

北多摩建設業協会は事務所からの要請を受け、直ちに災害本部の立ち上げた。



両事務所長と道路班参加会員

今回の訓練では、レスナビの報告訓練も入れ、被災現地の調査結果をレスナビにより北南建災害対策本部へ報告し、これによって南地区エリアの道路啓開作業を開始する想定である。

そして協会の災害本部から派遣された職員によって、道路上のガレキを啓開する作業に入り、啓開によって確保された道路へ東京消防庁のハイパーレスキューなどが、車両で進入してくると云うものであった。

東京消防庁などでは、ガレキの撤去がされる前に徒歩によって被災箇所へ侵入してくるといふハプニングもあり、被災地の状況からすれば、当然のことも考えられ、臨場感のある訓練であった。

私たちは、徒歩で現場点検に向かいガレキの状況や橋梁と道路との段差などについて、北南建災害対策本部へ報告した。

道路啓開作業は両事務所境の都道との想定であることから、南地区は北南建が、橋梁などの段差のある現場の中央地区については北々建が、それぞれ分担して作業を遂行し、両事務所による啓開訓練については、職員の連携によって、概ね成功裏に終了した。

今回の合同総合防災訓練では、短時間に啓開が図られ、東京消防庁のハイパーレスキューなどの救助活動などに寄与できたと考えている。その



本部への報告

その反面、反省点がない訳ではない。

その第一は、南地区のガレキ撤去に関してである。左側通行である道路の啓開を右側へ啓開したことは、消防車両の通行時間ロスが大きかったと考える。ガレキを撤去している側を消防隊員が徒歩で進入していることは、ちょっと違和感があった。今回の訓練では、警視庁の白バイ隊などによる交通整理を入れることが必要ではなかったか。

第二は、会場の整理についてである、合同総合防災訓練に参加した四市の住民が救助などの作業を野次馬的に見ていたが、それを排除してしまうということは、問題ではないか。

住民に訓練の様子を見せることもその訓練の中に織り込み済みであり、事故につながらない場所での野次馬は、やむをえないのではないかと思った。そのための会場整理に力を注ぐのは、本来の訓練には関係ない。

第三は、東京都の中でも、今後は、建設局・警視庁・消防庁などの現場の隊長との調整を組み込むことも必要ではないか。

特に、道路啓開では、警視庁の交通整理を入れたうえで、啓開することが必要ではないか。現場内の交通は、建設局だが、消防庁などの車両の交通整理は、警視庁に任せることが必要と考えた。

今回の訓練では、ブラインドがあったものの全体的には成功裏に訓練が完了した。これは、北多摩南部建設事務所の職員の事前からの十分な準備が重ねてきたことが大きい。

備が重ねてきたことが大きい。

私たち防災ボランティア会員も協力できた訓練でした。

北南建班 新川 彰

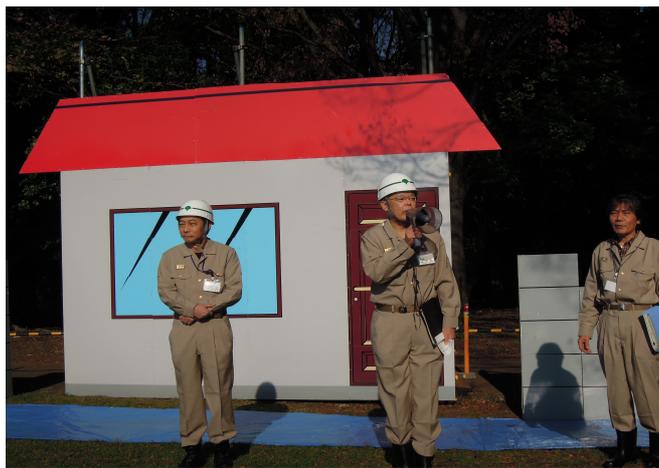
2) 河川関係班

平成 23 年度の東京都及び小平市ほか多摩北部 3 市合同総合防災訓練が 10 月 29 日(土)快晴の空の下、都立小金井公園で実施されました。

「都市型水害水防訓練工法等体験訓練」では、北多摩北部建設事務所班は「土のう、水のう積み体験訓練」、我々北多摩南部建設事務所班は「水圧扉体験訓練」を担当し、三沢さん、米田の 2 名で体験者の誘導・整理や安全の確認などの補助業務を行いました。

水圧扉は、水害時に地下室の扉などが水圧で開かなくなる都市型水害の怖さを体験してもらうため、第三建設事務所が平成22年度購入したものが用意されていました。

体験コーナーでは扉の向こうの水深が 30cm と 50cm を体験してもらうことになっていました。ちなみに水深 30cm では 36kg の力が、水深 50cm では 100kg の力が必要だそうです。三沢さんが 50cm、米田が 30cm を担当することになりました。



山縣北北建副所長の訓示

8 時 30 分に北多摩北部建設事務所山縣副所長から「多数の人に水害時の対応等を体験してもらうことになる。安全には十分留意して対応してほしい。」との訓示があり、9 時 30 分から訓練を開始

しました。



説明中の会員



「もう少しで開くよ・これは手強いぞ」



もう少しで開くよ・これは手強いぞ

開始早々、続々と都民の皆さんが体験コーナーに集まってきました。天気もよく、皆さんの出足は快調です。次々と体験希望の申し出があり、まずは順調、順調。

水圧扉体験の趣旨を説明すると、皆さん都市型水害の怖さを十分に認識されており、浸水時に

自動車の扉が開かなくなることや地下鉄への洪水の流入などについて話す人も多くいました。

水圧扉を開ける「こつ」を聞く人もいましたが、事務所の人によれば、「こつ」は一気にではなく徐々に力を加えるのだそうです。もっとも私から都民の方には「開けるこつも大事だが、このような大変な状態になる前に是非早く避難してください。」と言っておきました。

午後1時までの3時間半、参加者は引きも切らず、皆汗だくの対応でした。途中、水圧が大きくなる水深50cmの扉に不具合が生じましたが、業者の方が修理して無事再開して終了の時刻を迎えました。

参加者総数は約400人、水深30cmの水圧扉は100人以上の人が体験し、子供の場合は大人が手伝うこともありましたが、ほとんどの人が扉を開けることが出来ました。水深50cmの方はさすがに厳しく、扉を開けることが出来たのは20人余りでした。ただ、2人の女性が開けたのには驚いてしまいました。

終わりに当たって村尾東京都技監から「早朝からご苦勞様でした。道路・河川の管理は365日、日々休むことなく行わなくてはならない。今日の訓練なども生かして今後とも十分な対応をお願いします。」との挨拶があり、最後に北多摩南部建設事務所片岡副所長の講評で無事終了となりました。

三建所有の水圧扉は大変よくできています。是非とも多くの都民の皆さんに体験してもらい、都市型水害の怖さを体験してほしいものだと思います。ボランティアの皆さんにも体験する機会があればと思います。

訓練会場で目的地を探すのに大いに時間がかかったことも含め、個人的にも訓練として有意義な一日でした。訓練に参加した皆さんお疲れ様でした。

北南建班 米田 秀男

北北建班の報告

(1) 道路関係訓練

平成 23 年 10 月 29 日(土)、震災時における都、市、各防災機関との連携、強化及び自助・共助に基づく地域防災力の向上を図るため、都、小平市、西東京市、武蔵野市、小金井市の合同による防災訓練が都立小金井公園内で実施された。

訓練は、午前 8 時に多摩直下を震源とするM 7.3 の強い地震が発生し、多摩地区の広い範囲で震度6弱以上を記録、家屋の倒壊、道路やライフラインが寸断されたことを想定して、東京都、警視庁、消防庁、自衛隊などの各機関、近隣自治体の防災機関や市民、そしてアジネット(台湾、ソウル、シンガポール)、愛知県、横浜市、相模原市の緊急援助隊が参加しての大規模な防災訓練となった。

建設局では、本庁、北多摩北部建設事務所、北多摩南部建設事務所職員及び北建協協定業者、防災ボランティア協会員による災害対策本部を設置し、各本部の連携確認、他機関との情報連絡の他、道路障害物除去作業や現場調査の訓練を行った。

北北建班から道路啓開作業担当として、玉置、天野、松倉の3名が参加した。



本部への報告

今回の訓練の特徴は、あらかじめ想定した被害シナリオの一部にブラインドがかけられていたため、想定外の事態が発生した。例えば、協定業者による瓦礫の撤去終了後も自衛隊が重機作業に入ったため、消防車や赤バイク隊が通過できなくなり待機を余儀なくされた。

また、協定業者による橋梁の段差が解消した後も、消防隊による倒壊家屋からの人命救助作業が続き、予定していた道路巡回パトロールカーによる橋梁の段差復旧状況の点検に入れられないなど、震災時に起こりえる実践的な訓練となった。

北北建班の現場点検訓練は、3 班に分かれて各班長の指揮のもと、道路巡回(天野)による復旧状況の確認、小金井街道での被災想定現場でのレスナビによる現場点検(玉置)の他、今回、新たに倒壊した街路灯に張付けてあるICタグから路面下に危険な埋設物がないかを携帯端末で確認する訓練(松倉)を担当した。

ICタグによる点検では、救助ヘリコプターのホバリング音や救急車のサイレンが鳴り響き、また消防車による放水がされる騒然とした中を走って点検を行ったが、非常に緊迫感があった。

また、ICタグが最新の情報収集手段としてその有効性が期待されている事を肌身に感じながら行うことができた。

北北建班 松倉 迪郎

(2)河川関係訓練

今年も水害時に役立つ水防工法等(土のう積み・水のう積み、水圧扉)の体験訓練が行われた。

北北建班(岩田、藤井)は土のう積み・水のう積み体験訓練の実地指導を行った。



河川班参加会員

9時30分からモデル積みを開始。

会場には開始の10時前から家族連れや主婦、若者が集まっていたので時間前に訓練を開始した。皆さん「一度はやってみたいかった」、「どれだけ重いのか体験してみたい」と積極的。

これにつられて子供たちも「僕もやってみたい」、「私も」と続々と参加してきた。

地元の中学生(約30名)も途中から参加して会場は大いに盛り上がった。



土のう積み体験を指導する会員

今年は南紀の水害やタイの洪水で土のうを積んでいる光景をTVで目にしているせいか、水防に対する意識が例年になく高まっているように感じた。

13時に村尾都技監からあいさつをいただいて終了したが、後方にはまだ土のう作りを続けている家族がいたのは印象的でした。

北北建班 藤井 賢介

西部公園班の報告

秋晴れとなった当日、直前の準備のなかで他の出展者の進行具合を見ながら、徐々に増えてくる来場者の多さに西部公園ブースでは「公園の存在意義と非常時における機能、役割といったものの絶好のPRの場に」と張り切って開始時刻を待った。

西部公園班は、テント内での「防災公園関係パネル展示」と、公園協会が行っている「防災トイレ

組み立てと疑似体験」、「かまどベンチでの炊き出し実演」の広場での防災公園に関するアンケート調査を行った。

この調査は職員7名と我々ボランティア(篠原、湯本、二宮)3名の計10名が2班に分かれて行った。



西部公園ブース



参加会員

昨今、東日本大震災以降、国内外で大災害が頻発する状況からか防災意識の高まるなか、来場者は「近所の公園にも今日の展示のような施設が欲しい」とか、「初動対応後の避難生活を想定した対応策は出来ているのか」とか、はては「今日は景品は何をもらえるの」といった類のものを含め多数の質問・意見が寄せられた。

そうした一方で、災害時に応急対応できる設備の存在を知らない人も結構いた。

日頃の公園管理の上で地域の自治体や市民への情報の発信や連携といったものの更なる必

要性も感じつつ、参加した西部公園の関係者とこれまでと一味異なった防災訓練を感じとれる一日でありました。

西部公園班 湯本 勝

平成23年度 勝鬨橋ミニツアー研修会の報告

第6回の研修会が、10月24日(木)築地市場厚生会館で開催されました。例年5月中旬に行っていましたが、東日本大震災で今年度は、この時期に変更となりました。

ボランティア協会の支援会員40名をはじめ、道路管理部、道路保全公社からの参加をいただき総数52名の出席者でした。



鈴木道路保全担当部長

会は、15時に開会され、沼尻会長および鈴木道路保全担当部長の挨拶後、議事に入り、先ず、平成20年5月に発行したミニツアーガイドブックが本年10月に改訂され、その主な改訂内容を勝鬨担当の新井理事を説明しました。

勝鬨橋の生まれから開橋を止めるまでの一連の歴史も記載されており、一読頂ければ、幸いです。

次に、道路整備保全公社の佐口係長から、ツアー開始の平成17年度から22年度までの4,500名余の参加者の年齢構成やアンケートの主な意見が披露されました。

特に、60歳以上が80%を占めていることから高

齢者に配慮した案内が必要であると改めて感じました。



公益事業課佐口係長



聴講中の会員

引き続き、毎回お願いしております木住野「橋の資料館長」講演に入りました。

今回は、「ハネ橋の歴史」と題して、1900年代初めからアメリカのシカゴで建設されたハネ橋の背景や形式等を中心に詳細に説明され、当時の橋梁技術者の心意気を感じられました。

これまで同様に深い知識に基づく資料の作成および、わかり易い説明を頂き、誌上にて深く館長に御礼申し上げます。

研修会は17時に閉会。17時30分から、同会場にて52名の出席のもと懇親会に入りました。

多忙の中、ご参加頂いた相場一建所長の挨拶に続き、藤田道路整備保全公社総務部長の乾杯の発声で懇親会が開始されました。



相場一建所長



藤田道路整備保全公社総務部長

19時過ぎに熊本一建副所長の中締めで会を予定通り終了することができました。

研修会および懇親会に参加頂いた多数の方々の今後とも引き続きのご支援・ご協力をお願い申し上げます、報告いたします。

勝鬨担当理事 堀中 逸

協会からのお知らせ

1. 協会のホームページ

「東京都建設防災ボランティア協会」
ホームページのURLが以下に変わりました。

<http://tokyo-adv.info/>

(tokyo ハイフン adv ドット info スラッシュ)

※ネットの検索窓に協会のフルネーム(上記「」内)を漢字入力すれば入れます。

2. 新規会員の紹介

本年4月以降入会された方です。

池田 繁敏(H23年4月・北南建)

遠藤 俊夫(H23年4月・六 建)

玉置 廣(H23年4月・北々建)

林 幹生(H23年4月・六 建)

浅田 光昭(H23年5月・五 建)

中山 幾雄(H23年5月・三 建)

野村 隆(H23年9月・北々建)

萩原 松博(H23年9月・五 建)

古川 俊明(H23年9月・二 建)

敬称略 (入会年月・参集事務所)

3. 平成23年度砂防講習会

開催日時 平成23年12月13日(火)
14時30分から16時00分

場 所 小田急第一生命ビル 20F
(公財)東京都道路整備保全
公社 A・B 会議室

4. 建設局幹部職員との懇談会を開催します

開催日時 平成24年1月20日(金)
(時間は別途お知らせいたします)

場 所 第二本庁舎 4階

発行人: 沼尻 敦

発 行: 東京都建設防災ボランティア協会
所在地: 東京都新宿区西新宿 2-7-1
小田急第一生命ビル 20F
公益財団法人 東京都道路整備保全公社内

編 集: 加藤 基雄、中田 勝司、丸岡 敏夫